

## 日立造船株式会社

### グリーンなごみ焼却発電プロジェクト

## DNV GL グリーンボンド定期レビュー(第 2 回)



2020 年 09 月

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

発行履歴	内容
2018 年 8 月 31 日	債券発行前アセスメント報告書セカンドパーティオピニオン
2019 年 8 月 21 日	グリーンボンド定期レビュー
2020 年 9 月 30 日 (今回報告書)	<p>グリーンボンド定期レビュー(第 2 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 資金充当状況：調達資金 50 億円全額を計画通り充当完了</li> <li>- プロジェクト進捗状況：京都市南部クリーンセンター第二工場；2019 年 9 月竣工                  菊池環境保全組合新環境工場(ごみ処理施設)整備及び運営事業；2021 年 3 月竣工予定</li> <li>- 環境改善効果：適時(日立造船のウェブサイトに掲載)又は次回(2021 年度)の年次レポートにて対象プロジェクトによる CO<sub>2</sub> 削減効果を公表予定</li> </ul>

## スコープと目的：

2018年9月21日、日立造船株式会社（以下「日立造船」または「発行者」）が日立造船グリーンボンド（以降、「ボンド」）の債券を発行しました。債券発行額は50億円です。DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社（以下、「DNV GL」）は、グリーンボンドガイドライン（環境省、2017年）およびグリーンボンド原則 2018（GBP）を参照し、グリーンボンド適格性評価を実施しました。

日立造船は以下に分類されるプロジェクト及び資産に対してグリーンボンドで調達した資金を充当しました。

### 「汚染の防止と管理に関する事業」(省エネ・省排出型の廃棄物発電)

- 表-1 に対象プロジェクトを示します。対象プロジェクトは京都市(京都市伏見区)及び菊池環境保全組合(熊本県合志市)に設置するごみ焼却発電所です。
- 京都市(京都市伏見区)におけるプロジェクト/京都市南部クリーンセンター第二工場は、2019年9月に竣工され営業運転を開始しています。写真-1 に当該プロジェクトの外観を示します。
- 菊池環境保全組合(熊本県合志市)におけるプロジェクト/菊池環境保全組合新環境工場(ごみ処理施設)整備及び運営事業は、2019年2月に計画通りに土木工事に着工しています。2020年7月現在、竣工予定(2021年3月)に変更はありません。写真-2 に当該プロジェクトの外観を示します。
- グリーンボンド調達資金総額50億円は2020年3月で全額充当完了しています

表-1 対象プロジェクト(省エネ・省排出型の廃棄物発電) \*詳細はスケジュール-1 参照

対象プロジェクト	定格発電出力	竣工(予定)年月
京都市南部クリーンセンター第二工場	14.0MW	2019年9月 竣工
菊池環境保全組合新環境工場 (ごみ処理施設)整備及び運営事業	2.8MW	2021年3月 予定

DNV GL はグリーンボンドの発行前および定期的レビューを提供するよう日立造船から依頼されています。これを達成するための我々の基準と情報は下記の「評価項目（作業範囲）」で説明されています。定期レビュー(2回目)は、2020年7月20日の日立造船への定期レビューで提供された情報に基づいて行われました。我々は独立した認証対応や他の監査活動は提供しません。

この資料では、債券の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境効果に関する保証は提供されません。我々の目的は、下記に定めた通り策定された基準に適合するかについてアセスメントを提供することです。

この DNV GL の意見の範囲は、グリーンボンド原則 2018（GBP、ICMA）及びグリーンボンドガイドライン(GBGLs、環境省)の最新版で定められる範囲です。



写真-1 京都市南部クリーンセンター第二工場 2019年9月 竣工  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000270765.html>



写真-2 菊池環境保全組合新環境工場(ごみ処理施設)整備及び運営事業 2021年3月 竣工予定

## 日立造船および DNVGL の経営層の責任

日立造船は DNV GL がこのレビューを提供する期間において、必要な情報を提供するものとします。DNV GL の意見は独立したオピニオンであり、我々に提供された情報を基に、日立造船及び債券の他の利害関係者に対して、確立された基準がグリーンボンドの適格性を満たしているかどうかについて情報提供することを意図しています。我々の意見表明では、我々は日立造船から提供された情報及び事実に依拠しています。DNV GL はこの意見表明の中で参照する選定された資産に対する責任を負わず、また試算、観察事項、意見もしくは結論が正しくない場合、それに対し責任を負うことができません。このように、DNV GL は日立造船から提供される情報やデータ及びこのアセスメントの基本となる情報やデータが正確でない、または不完全な場合には責任を負うことはできません。

## DNV GL の意見の基礎

債券発行会社である日立造船に対し、DNV GL はグリーンボンド原則(GBP)\*1、グリーンボンドガイドライン\*2、気候ボンド基準(債券発行前評価時のみ)\*3 を用いたアセスメント手順を採用しています。これらは、GBP の要求事項を包含しており、日立造船のプロジェクトに応じてグリーンボンド適格性アセスメント手順(以下、「手順」)を作成することができます。我々 DNV GL の手順は、DNV GL の意見表明の根拠に資する適切な一連の基準を含んでいます。基準のバックグラウンドとなる全体的な基本理念は、「環境への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」グリーンボンドです。

我々の手順、すなわち、レビューされるボンドに対する基準は以下の 4 つの要素(原則)にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、グリーンボンドの発行体が適切な活動に対する融資として調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンボンドの発行体が、グリーンボンド調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンボンドが発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポーティング**：レポーティングの基準は、債券への投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的な適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

\*1:グリーンボンド原則 (2018 年国際資本市場協会 ICMA)

\*2:グリーンボンドガイドライン (2017 年版) 平成 29 年 3 月環境省

\*3:気候ボンド基準 2.1 版 (気候ボンドイニシアチブ)

## 評価項目（作業範囲）

我々が請け負った業務(評価項目)は、有効な情報(日立造船から我々に提供された情報が正確であるという認識)に基づく上位レベルの調査から構成されています。我々は、我々に提供された情報の正確さについては監査やテストによるチェックを行いません。我々の意見表明を作成する際の業務は以下を含みます。

### 初期アセスメント

- 債券発行への適用を目的とした、日立造船グリーンボンドを評価するための手順の作成。スケジュール-2 にアセスメント結果の概要を示します。
- 債券に関して日立造船より提供された文書のアセスメント及び、上位レベルデスクトップ調査による補足的なアセスメント。これらのチェックは、最新の良い事例(ベストプラクティス)及び標準的な方法での手法を参照します。
- 日立造船との協議及び、関連する文書のレビュー。
- 各基準に対する指摘事項(観察事項)の文書作成。

### 定期アセスメント

- 債券発行に関連した日立造船から提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、日立造船の主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類の評価。これらのチェックは、現在の評価のベストプラクティスと標準の方法論を参照しています。
- 日立造船関係者との協議、および関連資料のレビュー。
- 現地調査および検査(必要な場合)。
- スケジュール-2 に記載されたプロジェクト及び資産の定期アセスメント時点でのレビュー
- 定期アセスメントにおける観察事項の詳細の文書化。

我々の意見表明（詳細は後述）はこれらを要約したものです。

## 観察結果及び DNVGL 意見表明

DNV GL の観察結果は以下の通りです。

### 要素 1：調達資金の用途

日立造船は、以下のグリーンボンド基準に適合するプロジェクト及び資産を資金用途として充当していることを報告しています。

#### グリーンボンド適格性基準：汚染の防止と管理に関する事業

具体的には、調達資金は表-1 及びスケジュール-1 に示す、「省エネ・省排出型の廃棄物発電」(GBP2018)の 2 つのプロジェクト(京都市南部、及び菊池環境保全組合)の建設とそれに関連する作業に充当されています。2019 年度末(2020 年 3 月末)時点において、調達資金の全額 50.0 億円の充当が完了しました。

DNV GL は上記のプロジェクト分類の基準について、選定されたプロジェクト及び資産の適格性についてレビューしました。

- 京都市南部クリーンセンター第二工場	: 43.66 億円
- 菊池環境保全組合新環境工場（ごみ処理施設）整備及び運営事業	: 6.34 億円
合計	: 50.0 億円

### 要素 2：プロジェクトの評価と選定のプロセス

グリーンボンドで調達した資金は、全てスケジュール-1 で示されるプロジェクト及び資産へのみ充当されています。DNV GL は当該プロジェクトの実行に当たっては、定期的に改善の機会(可能性)を判断・評価し、また活動計画の立案、実行を通じて生じる環境や社会に対してネガティブな影響を低減するための自主的な活動を行うプロジェクトであることをレビューを通じて確認しました。

### 要素 3：調達資金の管理

DNV GL は、日立造船が債券発行以降から償還期間まで、どのように調達資金を管理しているかについて提示した証拠をレビューしました。DNV GL は日立造船が、定期的に債券の残高をレビューしていること、充当中も残額は現金及び現金同等物にて管理を行っていることを確認しました。2019 年度末(2020 年 3 月末)時点において、調達額 50 億円の全額を充当完了しています。

なお、先述の通り、ここでは DNV GL は債券の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境効果に関する取扱いは提供されません。

#### 要素 4 : レポーティング

DNV GL はグリーンボンドで要求される特定の項目に関して、日立造船が、日立造船のウェブサイト又は統合報告書にて定期的に報告・公開していることを確認しました。また、ここでは、プロジェクト概要(進捗状況を含む)、資金充当・運用状況並びに関連する定量的及び定性的な環境評価結果についての記載が含まれることを確認しました。

プロジェクト進捗状況は、京都市向けが 2019 年 3 月竣工予定が納入先との調整の結果 2019 年 9 月に延期されましたが、その後工事は計画通りに進捗し、2019 年 9 月に竣工され営業運転を開始しています。菊池環境保全組合向けは、計画通り工事が進捗しており、竣工予定(2021 年 3 月)も当初予定からの変更はありません。環境改善効果(CO2 排出削減)は、営業運転開始後に算定を開始し、適時(日立造船のウェブサイトに掲載)又は次回(2021 年度)の年次レポートで公表する予定です。

なお、環境評価は、各プロジェクト竣工後、運用実績等(運転記録等)に基づき適切な方法により算出し、報告される計画です。DNV GL は CO<sub>2</sub> 排出削減量について、必要な場合に今後の定期レポートの際にレビューと意見表明を行う予定です。



以上から、DNV GL は日立造船のグリーンなごみ焼却発電プロジェクトが、関連するグリーンボンド基準(グリーンボンド原則、気候ボンド標準及び環境省グリーンボンドガイドライン)に従って計画され、また実施中であることをレビューを通じて確認しました。

DNV GL は、日立造船から提供された情報と実施された業務に基づき、日立造船が発行したグリーンボンドは評価手順の要求を満たしていること、そしてグリーンボンド原則及びグリーンボンドガイドラインの中で述べられている“環境への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする”というグリーンボンドの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2020年9月30日



**Mark Robinson**

マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV GL ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



**Naoki Maeda**

前田 直樹

代表取締役社長

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



**Masato Kanedome**

金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

#### About DNV GL

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV GL enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight. With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

1. スケジュール 1 対象プロジェクト概要

Ref.	対象プロジェクト及び資産	GBP分類	GBPサブ分類	充当額	特記事項
01	ごみ焼却発電施設(廃棄物発電) 京都市南部クリーンセンター第二工場(京 都府京都市伏見区)	汚染の防止と管理に関する事業	省エネ・省排出型廃棄物発電	調達額50億円の全額充当完了(2020年3月末時点)	発電出力：14.0MW、一般ごみ 竣工：2019年9月(営業運転開始) 充当額(2020年3月末時点) ：43億66百万円
02	ごみ焼却発電施設(廃棄物発電) 「菊池環境保全組合新環境工場（ごみ 処理施設）整備及び運営事業」 (熊本県合志市)	汚染の防止と管理に関する事業	省エネ・省排出型廃棄物発電		発電出力：2.8MW、一般ごみ 竣工予定：2021年3月 充当額(2020年3月末時点) ：6億34百万円

2. スケジュール 2 グリーンボンド適格性評価手順

表中に記載の日立造船グリーンボンドフレームワーク及び法定関連書類(訂正発行登録書)は、投資家向け説明資料として別途公開されています。

(1) 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
1a	グリーンボンドの種類	グリーンボンドの種類は GBP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 ・(標準的)グリーンボンド ・グリーンレベニュー債 ・グリーンプロジェクトボンド ・グリーン証券化債	確認した文書類： -日立造船グリーンボンドフレームワーク -訂正発行登録書 日立造船関係者との協議	DNV GLは、資料レビュー及び協議結果に基づき、債権の分類は以下であることを確認した。  (標準的)グリーンボンド
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンボンドにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： - 日立造船グリーンボンドフレームワーク - 訂正発行登録書 - プロジェクト関連資料 日立造船関係者との協議	債券の目的に応じた判断により、調達資金の使途は以下の分プロジェクト分類にファイナンスされた。 -京都市南部クリーンセンター第二工場 (京都府京都市伏見区) -菊池環境保全組合新環境工場 (ごみ処理施設) 整備及び運営事業(熊本県合志市)  DNV GL はアセスメントを通じ、プロジェクトがグリーンボンド原則に基づく分類(省エネ・省排型の廃棄物発電に関する事業)であり、CO <sub>2</sub> 排出リスクが少ないことや、またネガティブな影響が定量化あるいは定性化されていることを確認した。また、これらの事項は、訂正発行登録書を含む法的書類にも記載されており、1b での要求事項を満足していると確認した。
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： - 日立造船グリーンボンドフレームワーク - プロジェクト関連資料 - CO <sub>2</sub> 削減量調査シート 日立造船関係者との協議	DNV GL は廃棄物発電プロジェクトは、建設及び運転を通じて土地利用や生態系への影響(リスク)があると考えている。DNV GL は日立造船から提供される資料のレビューにより、日立造船がプロジェクト実行に伴うリスクやそれに対する適切な対策を講じていることを確認した。また、日立造船はプロジェクト実行により明確な CO <sub>2</sub> 排出低減の環境改善効果があることを示していることを確認した。 DNV GL は要求事項 1c を満足していると確認した。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： - 日立造船グリーンボンドフレームワーク 日立造船関係者との協議	調達資金がリファイナンスのために使われる状況ではないため、本項目は非該当。

(2) プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>グリーンボンドの発行体はグリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発行体が、対象となるプロジェクトがグリーンボンド原則の適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>グリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての基準作成</li> <li>環境面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日立造船グリーンボンドフレームワーク</li> <li>日立造船関係者との協議</li> </ul>	<p>日立造船グリーンボンドフレームワークでは、発行体(日立造船)が下記の基準に従いプロジェクトの選定を行った。適格グリーンプロジェクトは、日立造船の環境基本方針に合致したものであり、このボンドではフレームワークに記載されている以下について、グリーンボンド原則 2018 に合致することを考慮し以下を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ焼却発電施設(汚染の防止と管理に関する事業)</li> </ul> <p>DNVGL は上記のプロジェクト及び資産の選定が日立造船の関連部署及び責任者により決定されたことを確認した。DNV GL は文書レビュー及び日立造船との協議を通じ、2a の要求事項を満足していると確認した。</p>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>グリーンボンドプロセスに関して発行体により公表される情報には、基準、認証に加え、グリーンボンド投資家は発行体のフレームワークや環境に関する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日立造船グリーンボンドフレームワーク</li> <li>日立造船環境方針、Hitz SDGs 推進方針</li> <li>日立造船関係者との協議</li> </ul>	<p>DNV GLは日立造船へのインタビュー及び日立造船から提供される文書のレビューにより、日立造船の環境基本方針、Hitz SDGs推進方針及び2017年に策定した「Hitz2030Vision」に基づく事業活動を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいることを確認した。日立造船は上記の持続可能性への活動状況を含む統合報告書を公開している。</p> <p><a href="https://www.hitachizosen.co.jp/csr/sdgs.html">https://www.hitachizosen.co.jp/csr/sdgs.html</a>  <a href="https://www.hitachizosen.co.jp/ir/data/annual.html">https://www.hitachizosen.co.jp/ir/data/annual.html</a></p> <p>DNV GLは日立造船の環境活動への取り組みがグリーンプロジェクトを通じて持続可能な社会に貢献することを確認した。</p>

(3) 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンボンドによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日立造船グリーンボンドフレームワーク</li> <li>- 訂正発行登録書</li> <li>- 日立造船内部手順(経理管理、文書管理等)</li> <li>- グリーンボンド資金の充当状況</li> <li>- グリーンボンド資金の充当全体リスト (京都市南部、菊池)</li> </ul> 日立造船関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューにより、日立造船が債券発行時点から支出が完了するまでの間、調達資金を適切に追跡調査したことを確認した。調達資金の総額は日立造船の企画管理本部経営企画部財務グループにより管理されたことを確認した。DNV GLは日立造船内部手順によりグリーンボンド調達資金の残額が管理・記録され、また運用において適切に管理されていたことを確認している。DNV GLは要求事項3aを満足していると確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンボンドが償還されるまでの間、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日立造船グリーンボンドフレームワーク</li> <li>- 日立造船内部手順(経理管理等)</li> <li>- グリーンボンド資金の充当状況</li> <li>- グリーンボンド資金の充当全体リスト (京都市南部、菊池)</li> </ul> 日立造船関係者との協議	DNV GLは文書のレビューとインタビューにより日立造船が債券発行時点から支出が完了するまでの間、調達資金を追跡調査し、2020年3月までにすべてのグリーンボンド調達資金(50億円)が適格プロジェクトへ充当済みであり、残高は無いことを確認した。DNV GLは要求事項3bを満足していると確認した。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日立造船グリーンボンドフレームワーク</li> <li>- 訂正発行登録書</li> <li>- グリーンボンド資金の充当状況（京都市南部、菊池日立造船関係者との協議</li> </ul>	グリーンボンドの手取り金は財務部門により管理されたことを確認した。また手取り金は日立造船グリーンボンドフレームワークに従い 2020 年 3 月までに全額が充当された。グリーンボンド調達から充当までの期間、未充当資金については現金及び現金同等物で管理されていたことを確認した。DNV GL は要求事項 3c を満足していると確認した。

(4) レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はグリーンボンドで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を含む各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 守秘義務契約や競争上の配慮</li> <li>- 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境改善効果</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日立造船グリーンボンドフレームワーク</li> <li>- CO<sub>2</sub>削減量調査シート</li> <li>- 「日立造船グリーンボンド」ウェブサイト内公表資料ドラフト</li> </ul> <p>日立造船関係者との協議</p>	<p>日立造船は、グリーンボンドで要求される特定の項目を含む年次報告書及びウェブサイトで1年に1回報告する。この報告には、プロジェクトに関する記載や調達資金の充当状況、関連する定量的及び定性的な環境影響評価が含まれる。日立造船はCO<sub>2</sub>排出削減量総量を運転記録(例：年間当たりの発電量 MWh/年)に基づき報告することを計画している(注；現在はまだ営業運転されていない)。DNV GLは要求事項4aを満足していると確認した。</p>